

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京丹波町立蒲生野中学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	京丹波町立蒲生野中学校 第2学年1組・2組 47名 京都府須知高等学校食品科学科 教諭2名 園芸加工専攻科生徒6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（京都府立須知高等学校との連携事業） (2) 地域における活動 ① イベント名（日本菊花全国大会・京都府立植物園菊花展・京都府丹波自然運動公園菊花展） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	日本の伝統的な菊栽培に取り組み、改めて自文化を見つめ直すことで、国際理解教育における異文化理解を進める一助とし、自己肯定感を深めながら多様な社会への理解とその一員であることを自覚し、他者への尊重と共生に向けての一步としたい。
5 取組内容	(1) 菊栽培の取組 須知高校八里教諭、食品科学科の生徒のみなさんの指導を受け、菊の歴史や栽培方法を学び、実習に取り組んだ。 ①菊栽培の歴史の学習と挿し芽作業（7月10日） ②菊栽培の学習と鉢上げ作業（7月30日） ③鉢かえ作業（8月19日） ④脇芽処理作業（9月18日） ⑤輪台付け作業（10月9日）  [鉢かえ作業の様子]  [輪台つけ作業の様子]

(2) 展覧会出展

- ①京都府立植物園菊花展展示（10月20日～11月15日）
- ②日本菊花全国大会展示（10月20日～11月23日）
- ③丹波自然運動公園菊花展展示（10月24日～11月8日）



[丹波自然運動公園の菊花展展示]

(3) 成果発表会にむけての取組

共生社会の一員としての自覚を育む学習の一環として位置付け、成果発表会では、英語での発表や、動画、壁新聞など、誰にでも理解してもらえるような発表方法の工夫を行った。

- ①学習のまとめと発表準備（11月20日～11月11日）
- ②発表会リハーサル（1月25日～1月26日）
- ③取組の成果発表会（1月27日）
 - ア パワーポイントでの発表
 - イ 壁新聞での発表
 - ウ 英語での発表
 - エ 動画での発表



[成果発表会の様子]

6 主な成果

初めての取組であったが、京都府立須知高等学校食品科学科の八里修平教諭・百々功一実習教諭のご指導と、食品科学科食品加工コース園芸加工専攻科3年生6名のご協力により、生徒一人ひとりが積極的に取組を進めることができた。

日々の水やりや液肥やり、花を咲かせるための遮光作業など、生き物を育てることの苦労や喜びを感じながらの取組となり、日本の伝統的な菊栽培を、実体験を通してその文化の理解へとつながる貴重な体験学習となった。

事後学習では、共生社会への理解に向けた観点を踏まえ、英語での発表や、耳の不自由な方へ向けての文字動画や壁新聞での発表を行い、多様性を尊重する態度の育成につなげることができた。

須知高等学校の協力の下、京都府立植物園菊花展では特別賞、日本菊花全国大会においては、優秀賞をいただくことができた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	校区にある京都府立須知高等学校食品科学科との連携事業を中心に、京都府丹波自然運動公園の菊花展への出品など、地域の活動や施設に目を向けることによって、各施設の取組と融合し、受け入れ側の高校や施設にとってもメリットがあるWin-Winの関係を構築することができた。
8主な課題等	本校としての指導に当たり、菊栽培はもとより各菊花展に関する知識等が大きく不足していたため、特に菊花展では、重要な栽培の仕上げなど須知高校八里教諭に多くを委ねる状況になってしまった。専門的な技術や知識についてはお任せせざるを得ないが、学校としてできることや、できる範囲を十分踏まえた取組にしていけることが大切である。 発表方法の多様性を図る中で、手話での発表も考えていたが、コロナ禍の中、指導者を確保することができなかった。今後、地域のネットワークなどを活用するなど、様々な人材資源を得る方策をもつ必要がある。
9来年度以降の実施予定	地域の学校・施設との連携をもとにした活動を大切にしたい。また、日本文化の理解を通しての国際理解教育の基盤づくりを継続する観点から、今後も「菊栽培」に取り組んでいくことを考えている。

菊の全国大会で好成績 京丹波・須知高教員ら

地元中学生に栽培「技」伝授

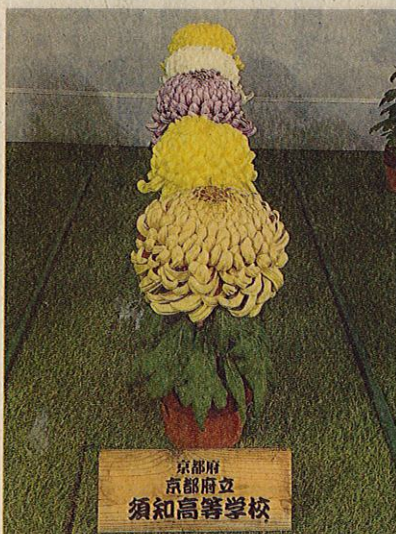


植え替えた鉢の底を手に打ち付け、土を固める八里教諭
(右)と蒲生野中の生徒たち『京丹波町蒲生・蒲生野中』

須知高（京丹波町豊田）の教員と生徒が、地元の蒲生野中（同町蒲生）の生徒たちに菊の栽培方法を伝えている。菊の全国大会で好成績を収めた同高の「技」を学ぶ中学生は、心を込めて菊を育てている。

指導に当たるのは1年前 修平教諭（38）。食品科学に農芸高（南丹市園部町）科を担当し、昨年度から食から須知高に赴任した八里 品加工コース園芸専攻の生

蒲生野中「咲くのが楽しみ」



昨年11月に行われた日本菊花全国大会で「衆議院議員賞」を受賞した須知高の作品一同高提供

徒に菊の栽培を教えている。

昨秋、大阪府和泉市で開かれた日本菊花全国大会（日本菊花会主催）で、八里教諭と同高生徒が育てた5鉢1組で美しさを競う「補助花壇の部」で全国3位の「衆議院議員賞」を、異品種1鉢で全体のバランスなどを競う「三本立花壇の部」で全国5位の「内閣府特命担当大臣・男女共同参画賞」を受賞し、さっそく実績を残した。

こうした技術を通じて同高近くの蒲生野中の生徒たちに植物を育てる面白さを体感してもらうと、同中2年の総合学習の一環として7月上旬から八里教諭

と同高の生徒たちが指導している。開花する10月上旬まで5回ほどの授業に携わる。

これまで、挿し芽による苗の生育や茎が太い1本を選んで鉢に植え替える鉢上げの作業を進めた。3回目の10日は、高さ約10センチに育ったキクを、さらに大きな鉢に植え替えたほか、草丈の成長を抑える薬品を吹きかけた。授業を受けた同中2年の中田俊輔さん（13）は「どんな花が咲くのか楽しみ」と笑顔で話した。

京丹波町では毎秋、地元住民らが育てたキクを披露する「菊花展」（今年は中止）が知られる。八里教諭は「今は地元の子どもたちに教えている菊作り。いつか地域を彩る花になればうれしい」と期待を込める。

（佐々木千奈）

丹波

京都新聞

8月25日

火曜日

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.

発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

20 地域

丹波



須知高 菊花で全国1位

⑤受賞した菊を育てた八里教諭(後列右端)と食品科学科3年の生徒たち「京丹波町豊田・須知高」5鉢1組で美しさを競う補助花壇の部で、日本一に輝いた須知高の菊(同高提供)



京丹波町豊田の須知高が、菊の愛好家が集う日本菊花会(大阪府和泉市)主催の日本菊花全国大会で、全国1位の国土交通大臣賞に輝いた。2度目の出場にして同高初めての快挙に、生徒らは喜びの表情を見せた。

補助花壇の部 初快挙「うれしい」

このほか、同高の生徒が指導に関わり、薄生野中(京丹波町薄生)2年の生徒が育てた菊が同部門で優秀賞に輝き、府立植物園(京都市左京区)の菊花展でも特別賞を受賞した。

(佐々木主彦)

出品する鉢運びに携わった小牧颯人君(17)は「日本一になったときは驚いた。選んだ鉢は花びらがきれいでこれだと思ったので、1位を取れてうれしい」と喜んだ。

食品科学科食品加工コース園芸専攻3年の生徒6人が、昨年同高に赴任した八里修平教諭38指導の下、菊の栽培に取り組んだ。今年は新型コロナウイルスによる休校を受けて昨年より2カ月ほど作業の取り掛かりが遅かったが、立派な花が咲くよう害虫の駆除作業や、花びらの向きや並びを整える花直し作業など、最後まで丹精込めて育てた。

受賞したのは草丈50センチ以下の5鉢1組で美しさを競う「補助花壇の部」。125点の中から1位に選ばれた。各部門で1位に当たる賞の受賞は、高校生では同高のみ。

京都新聞

11月6日

金曜日



京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.

発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通美川上ル

丹波



須知高と蒲生野中の生徒らが育て、見事な花を咲かせた菊
(京丹波町曽根・府立丹波自然運動公園)

丹波自然運動公園

丹精込め育てた菊 鮮やか

京丹波町曽根の府立丹波自然運動公園で開かれている恒例の「菊花展」で、須知高（同町豊田）と蒲生野中（同町蒲生）の生徒が育てた菊が初めて展示された。丹精込めて咲かせた白や黄色、ピンクなど見頃を迎えた色鮮やかな菊がずらりと並んでいる。

同中では、中高連携として、7月から同高食品科学科を担当する八里修平教諭（38）と食品加工コース園芸専攻の生徒らの指導で、2年の生徒が菊作りに初めて取り組んだ。育てたのは草丈約50センチの菊「禰助」10品種。10月の中旬から花が開き始め、

須知高と蒲生野中生徒作品 初の展示

「咲いてくれて満足」

見事な花を咲かせた。

生徒の作品として「禰助」が計83点と同高で育てた「大菊」12鉢が飾られている。品種によって開花時期や花の大きさが異なるため、期間中は長く楽しめるという。

八里教諭は「外での世話は日当たりの虫の管理が大変だが、初めてにしては良くてきている」と生徒らをねぎらった。

蒲生野中の生徒らの菊作りを手伝った同高3年森文希君（18）は「初めて教えたのでうまくいくか不安だったが、きれいな菊が咲いてくれて満足です」と話した。

このほか、同町や亀岡市、福知山市の愛好家の菊や五重塔をかたどった作品など約300点が並んでいる。無料。8日まで。

（佐々木孝彦）